

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	福井支部	(2) 記載者氏名:	大和 康郎	会員番号:	13872	事務局整理記入欄	福井 - 30
分水嶺区分	夜叉ヶ池の県境側鞍部 ~ W109三周ヶ岳分岐	(3) 山行日:	2005年	5月	22日	(4) 天候	小雨

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

宮本 数男	10622	山本 以久子	12260				
長谷川 直司	13424	山田 浩	一般参加				
牧田 正弘	13784	福岡 八朗	一般参加				
大和 康郎	13872						
計			7名	計			名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	夜叉ヶ池上部の県境最低鞍部 ~ 黒壁山分岐 ~ 三周ヶ岳分岐 ~ (分水嶺離脱して三周ヶ岳へ) 「一般的な往復登山」											
アローチ:	R8 ~ (R476) ~ R365 ~ 県道231經由広野ダム ~ 「林道」 ~ 夜叉ヶ池登山口(ここより登山) ~ 夜叉ヶ池 ~ 夜叉ヶ池上部の県境最低鞍部(分水嶺)											
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	歩行 時間	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒				
歩行開始点	夜叉ヶ池登山口		136	16	18.43	35	40	46.54	471.2			
	夜叉ヶ池祠前		136	17	24.20	35	40	22.49	1,104.9	1:30	A-1	1・8・9・12・13
分水嶺到達点	夜叉ヶ池の県境最低鞍部		136	17	26.32	35	40	20.53	1,105.2	0:05	A-1	1・2・5・8・13
	ピーク		136	17	48.38	35	40	31.51	1,233.2	0:29	A-1	3・4・7
	黒壁山分岐点		136	17	55.99	35	40	39.58	1,254.8	0:12	B-2	3・7・10
W109	三周ヶ岳分岐		136	17	55.88	35	40	43.83	1,257.3	0:07	B-2	6・7・10
一時分水嶺離脱	三周ヶ岳		136	18	0.33	35	41	1.06	1,296.7	0:17	B-2	7・10
W109	三周ヶ岳分岐		136	17	55.88	35	40	43.83	1,257.3	0:16	B-2	
分水嶺離別点	夜叉ヶ池の県境最低鞍部		136	17	26.32	35	40	20.53	1,105.2	0:43	B-2/A-1	2
歩行終了点	夜叉ヶ池登山口		136	16	18.43	35	40	46.54	471.2	1:18	A-1	
										歩行時間(休憩時間を除く)	4時間57分	
										総所要時間	6時間07分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
	三周ヶ岳 (分水嶺上ではない)	1	真南	良好	分水嶺より外れているが、今回の山行記録として残す。

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

- 夜叉ヶ池の集水区域に看板・木道・祠がある。
- 本部の分水嶺データではW111夜叉ヶ池峠となっているが、峠と言う習慣はない。只、現在は岐阜県からの登山道が分水嶺(県境)のこの最低鞍部の所に付けられているので、峠のようであるが、何遍も述べるが、峠という習慣はない。ので「**県境最低鞍部**」と表現させて戴く。あえて峠がどこかと言うならば、美濃の人達は雨乞いの為の昔の登山経路は池の又谷と大楯尾谷の合流点付近から尾根沿いに登り、夜叉ヶ池を通り、後は尾根沿いに降りて、夜叉丸を通り夜叉ヶ池に来ていた。よって峠は何処かと云われれば夜叉ヶ池と云う事になる。
- 本部の分水嶺資料にはW110 夜叉ヶ池とあるが、このような名称の山はない。三国岳方面への最初のピークを「夜叉丸」と称されている。この点をW110としたので、三周ヶ岳方面のピークには特別な名称の山は無い。
- 地点名で単にピークと表現したが、現場には何も表示されていない。只、このピークには草刈がなされ広場になっている。ここを三周ヶ岳と間違えて引き返す人もある。奥三周とか偽三周とか言う人もいる。
- 夜叉ヶ池には木道が作られているが、積雪に拠る雪の重みで中央部で折れている箇所がある。木道の強度不足である。
- 三周ヶ岳分岐のポイントには「京都分水嶺を歩く会」のプレートが樹木に付いていた。
- 分水嶺尾根の歩道は、かすかに踏み跡が有る程度で両側から笹・樹木類が覆いかぶさって来ており、手で笹・樹木を掻き分けて行く状態であった。岐阜県側斜面の勾配がきつ、あまり歩道を広げるのは自然破壊に繋がり、無理であろうと推察する。(一部岐阜側の斜面で崩落している箇所あり。)又、歩道を広げると三周ヶ岳方面への入域者が多くなり、オーバーユースによる登山道の崩落が進むものと推察する。よって歩道は現状で充分である。

(9) 水および植生に関連した特記事項

- 夜叉ヶ池までの登山道から見た景色はブナの新緑が大変きれいであった。本日は小雨が降っており一層きれいに見えたのかもしれない。
- 夜叉ヶ池より少し三周寄り福井県側斜面の尾根下部に古池がある。(夜叉ヶ池より若干、高度は高いか)この池は古池と称されているように昔は池であったもので、現在は干上がっていて登山道から見ると、草類が繁茂しているのが見られる。夜叉ヶ池の将来の姿を暗示しているようである。只、夜叉ヶ池の周囲にはブナ等の広葉樹林が多く残っているので、それらの樹木の保水能力が落ちない限り夜叉ヶ池は安泰と思われる。特に標高の高い夜叉丸方面の福井県側斜面にあるブナを主とした広葉樹の森が夜叉ヶ池の水位保全に大きな役割をしていると思われる。(岐阜県側の登山道が県境最低鞍部に繋がっているが、その直下はかなり急勾配で登山道がつくれている。その登山道の上側から数ヶ所、清水が流出しているが、これらは福井県側斜面にあるブナの森が貯めた水が染み出したものと推察する。)夜叉丸方面の広葉樹林が保全されないと夜叉ヶ池は古池の状態になってしまう可能性がある。
- 三周ヶ岳への尾根筋には、石楠花が丁度見頃に開花していた。
- 石楠花以外にはカタクリ・ショウジョウバカマ・イワカガミ・イワウチウ・一(三)輪草・コブシ・サンカヨウ・ツクバネソウ・マイズルソウ等多くの花が開花していた。

(10) その他の特記事項

- 夜叉ヶ池の祠の所で、毎年山開きの神事が行われる。
- 夜叉ヶ池には「ヤシャゲンゴロウ」が生息しており、この稀少動物を保護する為、「夜叉ヶ池水生昆虫生息地保護林」として池が指定された。又、梅雨の時期にはモリアオガエルが多く産卵を行う。この「水生昆虫生息地保護林」の指定を契機に南越前町(旧今庄町)の有志を中心に多くの登山者がパトロール員として登録され、池の自然環境保護の為に、交代でパトロールによる注意喚起活動が行われている。(5月 ~ 11月、土・日・祭日実施) 日本山岳会の会員の方も、このパトロール員に多く登録されている。
- 夜叉ヶ池周辺では「トイレ・キャンプ・池での手洗い・池への入水・火気の使用」が禁止項目として定められている。この項目以外には「ゴミの持ち帰り」「ペットの入山禁止」が有る。

(11) 写真の添付: (有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:	三周ヶ岳分岐に於ける本日(2005年5月22日:上の写真)と前回(2005年4月6日:下の写真)の状態 (前回の分水嶺尾根は積雪で樹木が押さえられていたが、本日はすっかり数で覆われて先が見えない状態であった。)
-------	--

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

--	--



三周ヶ岳分岐に於ける本日(2005年5月22日:上の写真)と前回(2005年4月6日:下の写真)の状態
(前回の分水嶺尾根は積雪で樹木が押さえられていたが、本日はすっかり葎で覆われて先が見えない状態であった。)